

お釈迦さまの十大弟子・阿那律尊者 あ な り つ そ ん じ ゃ 平成24年8月第3週放送

お釈迦さまの十人の優れた弟子の一人である阿那律尊者は、アヌルダもしくはアヌルッタとも言われ、天眼第一（てんげんだいいち）と称せられた人物です。天眼とは、心の眼がひらかれた事によって、天をも見通すことができる程の眼力のことです。

阿那律は、お釈迦さまと同じ釈迦族の出身で、同じく十大弟子に数えられた阿難や優波離らの仲間と共に七人で出家し、お釈迦さまのもとで修行を始めました。

ある日、お釈迦さまの説法を多くの聴衆と共に聞いていた阿那律は、ついウトウトと眠ってしまいました。それに気がついたお釈迦さまは、説法のあと阿那律を呼んで問いただします。

「道を求めてやまない阿那律よ。今日の説法で眠っていたのはどうしたことなのだ。」すると阿那律は、お釈迦さまの前でひれ伏し、

「お釈迦さま、私は今日より、たとえわが身に何が起ころうと、誓ってお釈迦さまの前で眠る事はいたしません。」

そう誓いを立てたのでした。

“眠らない”という、人間が生きていくうえでとても不可能な事を、阿那律はお釈迦さまの前で誓ったのです。それは、自分自身との生涯にわたる戦いの始まりであり、二十五年も続いたといわれています。

しばらくすると、眠らないために眼病にかかってしまいました。心配したお釈迦さまが、何度も“眠らないという行”を止めるよう諭しましたが、「誓ったことだから」と拒みつけ、ついには阿那律の目は見えなくなってしまいました。しかし、その時に心の眼がぱっとひらけたと、古いお経の中に語られています。

また、阿那律は、お釈迦さまの臨終に立ち会った弟子の一人でもありました。

その時、お釈迦さまは「これが、皆への私の最期の教えだ」といって静かに目を閉じられました。お釈迦さまはすぐに亡くなったのではなく、まず瞑想に入られました。徐々に深い瞑想に入り、やがて完全な涅槃に到達されたのです。

目を閉じたお釈迦さまの様子を、固唾をのんで見守る弟子たちに伝えたのが、阿那律でした。心の眼によって、肉眼では見えないお釈迦さまの瞑想の深さや、やがて完全な涅槃に到達されたことを弟子たちに伝えたのです。

奈良の興福寺こうふくじには、国宝の十大弟子立像がまつられています。しかし、阿那律あなりつを含め四人の像は、現在は残念ながらお参りすることができません。

もし、阿那律あなりつの像を見ることができたならば、きっとその顔は、静かに目を閉じ、厳しい仏道修行をし続けたがゆえの、優しい微笑みを湛ただえているにちがいないのです。

— 終 —